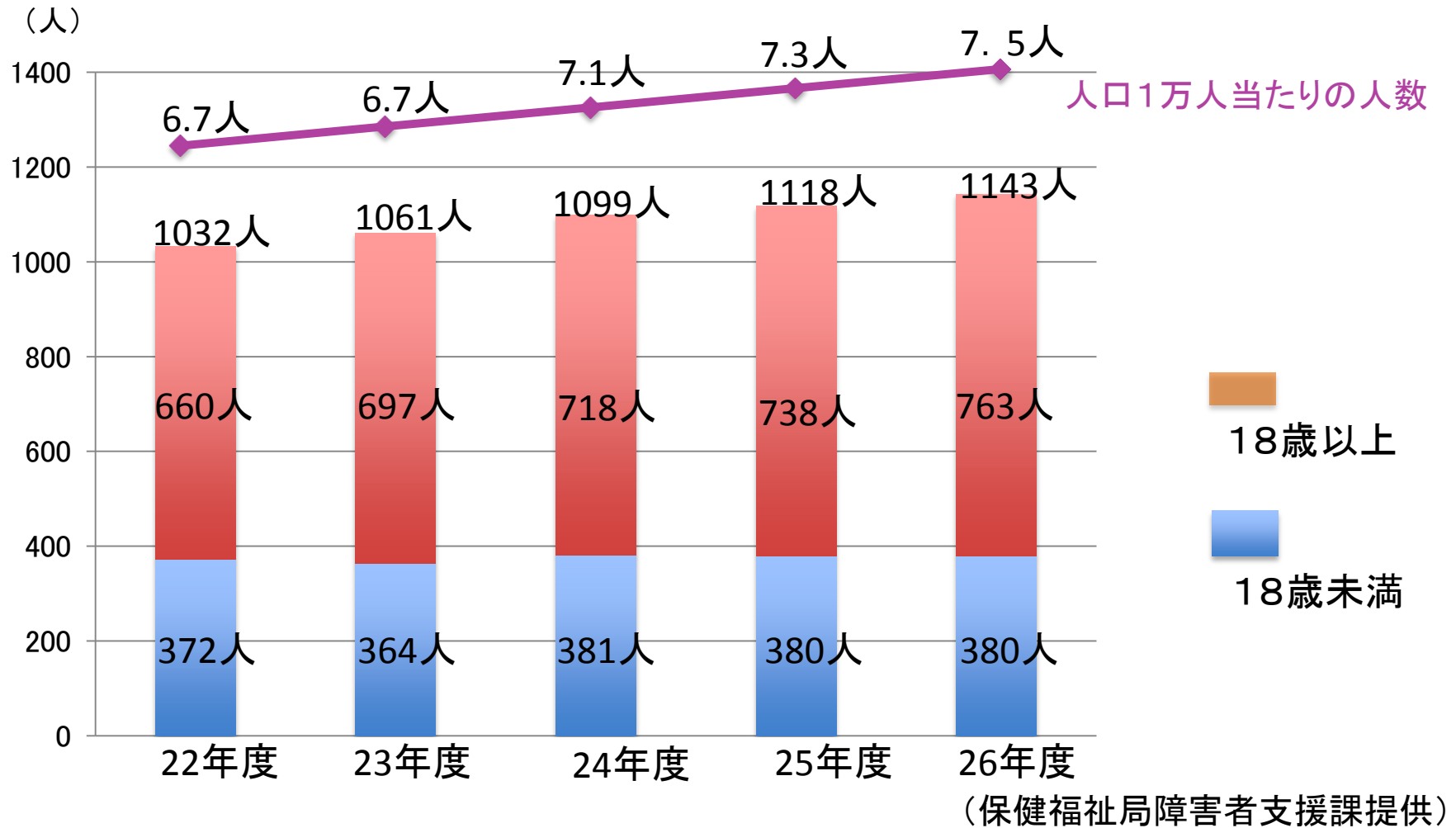


神戸市における
『重度障害児者の医療福祉コーディネート事業』
概要

社会福祉法人芳友 にこにこハウス医療福祉センター
河崎洋子

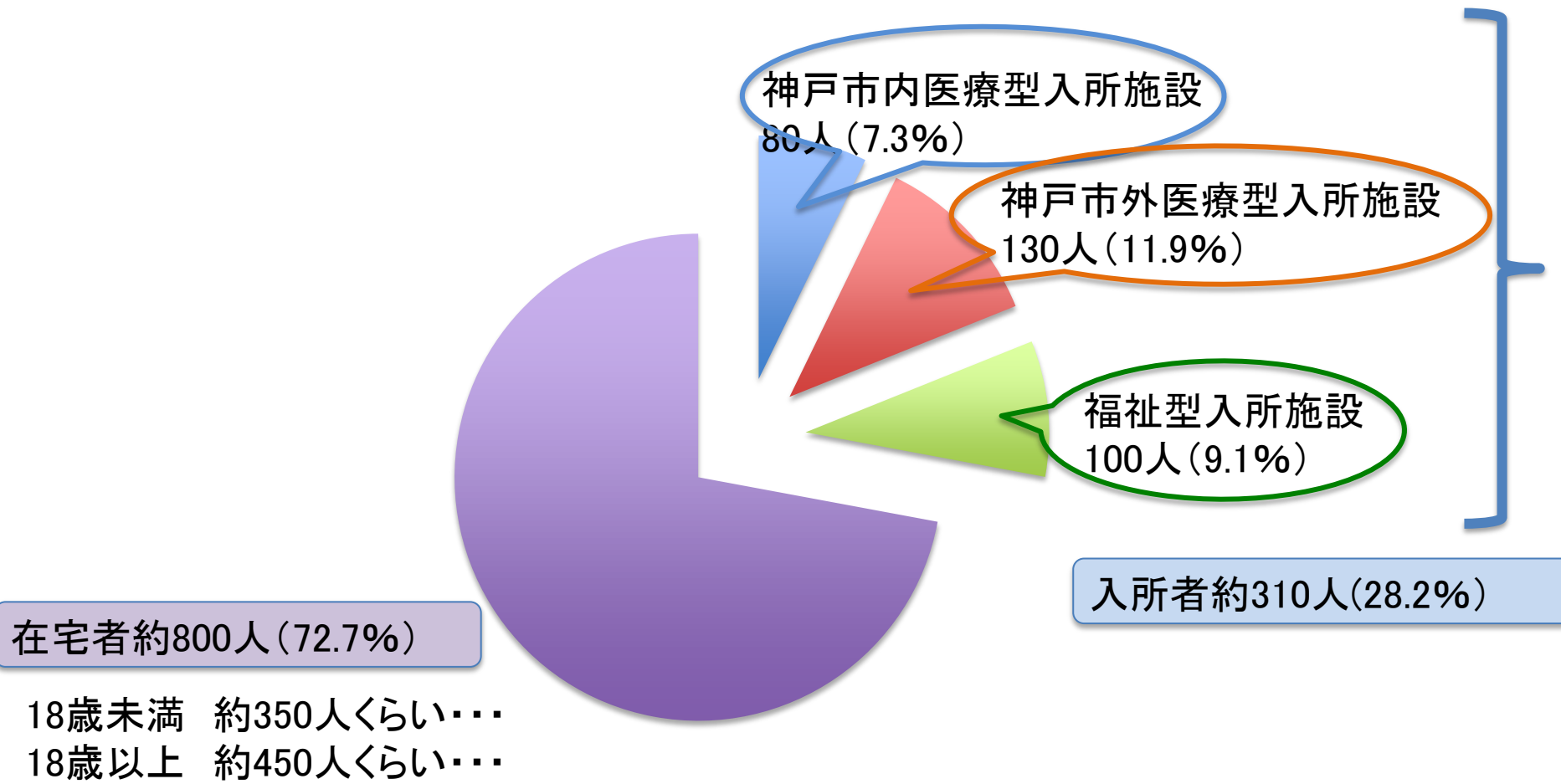
国際障害者年(1981年)等を契機として、ノーマライゼーションに関する意識の変化が浸透し、日本においても共生社会の実現を目指し、障害者施策が進められてきたところである。しかも、近年の医療技術の進歩や社会情勢の変化により、医療的ケアの必要な障害児者が在宅に増えるとともに、医療問題や高齢化問題など、在宅生活をめぐる環境が変化しており、支援体制の一層の充実が求められている。

神戸市の重症心身障害児者数の推移



神戸市内の重症心身障害児者数の5年間の推移をしめす。人口1万人当たり7.5人と全国平均を大きく上回り年々増加傾向だが、18歳以上が徐々に増加しており重症心身障害者の高齢化がうかがわれる。

神戸市では・・・ 重症心身障害児・者 約1100人くらい



神戸市内の重症心身障害児者数は約1100人で、その内施設入所者が約310人(28.2%)である。全国的には約30%以上が入所となっており、神戸市では入所施設の不足により在宅で過ごす重症児者が多いことがわかる。

「重度障害児者の医療福祉コーディネート事業」

重症心身障害児者の在宅生活を支援するためには、地域における医療、保健、福祉、介護、教育などが緊密に連携し、情報を共有する必要がある。

神戸市では、重度の肢体不自由と知的障害を併せもち、出生時より多種多様な基礎疾患を有する重症心身障害児者(重症児者)が安全、安心に地域で過ごしていくことを目標に「重度障害児者の医療福祉コーディネート事業」の取り組みを開始した。

実際の取り組みについては社会福祉法人芳友 にこにこハウス医療福祉センターが平成28年10月より本事業を受託している。

対象

重度障害児者

重症心身障害児者*に加えて、知的障害は伴わない重度の肢体不自由者(身体障害手帳1・2級を持つ)や、肢体不自由は伴わないが気管切開など重度の医療的ケアを要する等の障害を持ち、地域での日常生活に医療、福祉、教育の連携を要する者を重度障害児者として、神戸市における「重度障害児者の医療福祉コーディネート事業」の対象とする。

* 重症心身障害児者

重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態を重症心身障害とい、その状態にあるこどもを重症心身障害児、さらに成人した人を含めて「重症心身障害児・者」と呼ぶ。

一般的に身体障害者手帳1・2級＋療育手帳A判定

「重度障害児者の医療福祉コーディネート事業」 方針

①コーディネートにおいて使用する情報登録書の作成

重症心身障害児者は、原疾患や心身の状態が様々であるため、診療経過等も含めた医療情報等を共有することは、高齢化等により様々な診療科での受診・入院機会が増加した場合や遠方への外出時等に緊急搬送された場合、災害時などにもメリットがあると考えられる。

②重度障害児者に対する保健、医療、福祉その他の各関連分野の支援を行う機関との連絡調整

小児期からの長い病歴や特異的な生活ケアなどが受け入れを阻む原因・誘因となる。予め「情報登録書」にて医療的重症度や日常ケアが整理でき、受け入れ側の資源が明確になっていれば、それらの情報を用いて、ストレスがなくスムーズな連絡調整を目指すことが可能となる。

③重症心身障害児者処遇に関する研修

④一般相談対応

重度障害児者の入院受け入れ対応アンケート調査

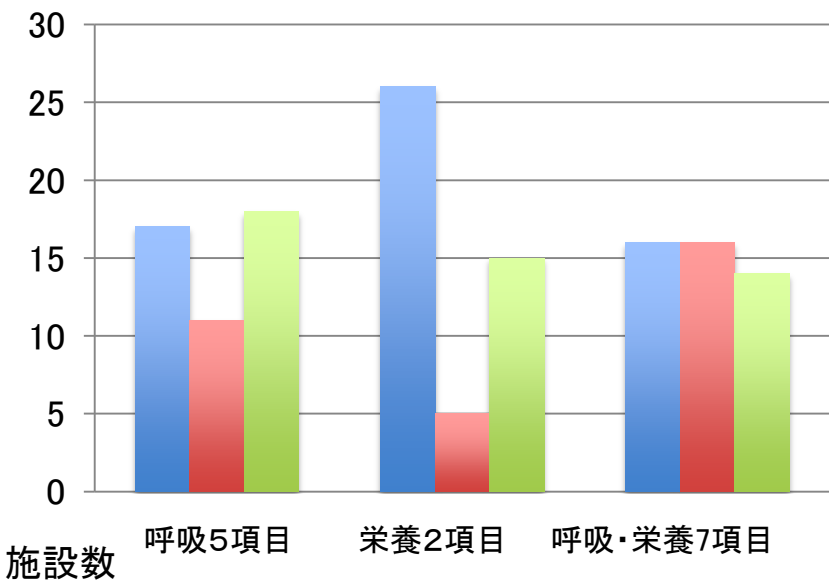
～方法～

- ・重度障害児者の救急受け入れが困難な状況の改善を目的とし、神戸市第二次救急病院協議会と神戸市民間病院協会に加盟中の92施設に、アンケート調査を行った。
- ・調査項目は呼吸障害に関わる5項目(気管切開、気管内挿管、侵襲的人工呼吸器、非侵襲的人工呼吸器、酸素投与)と栄養に関わる2項目(胃瘻、経鼻経管栄養)、その他3項目(人工肛門、中心静脈栄養、腹膜透析)の10項目について入院での対応が可能かを、成人と小児の急性期および慢性期に分類してそれぞれの受け入れについて調査した。

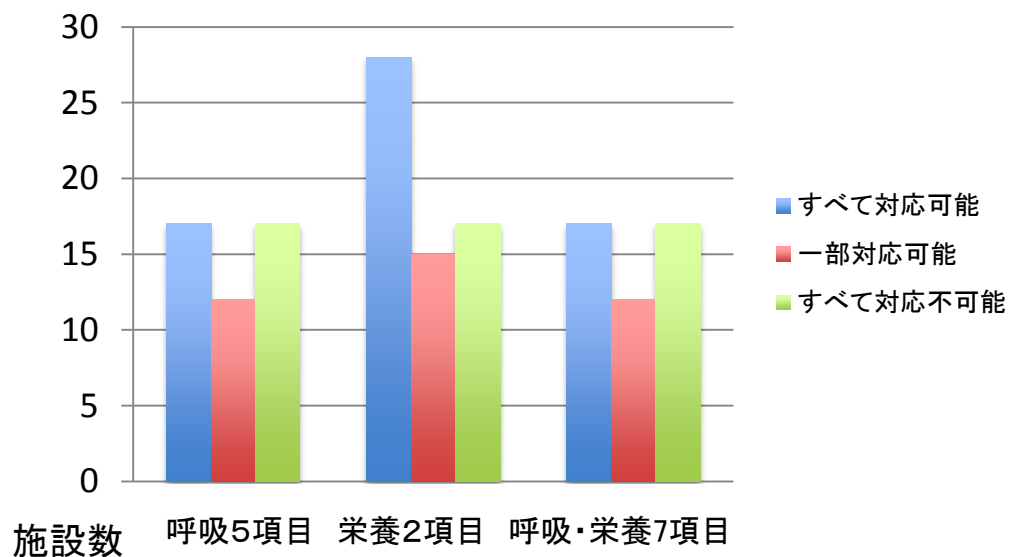
重度障害児者の入院受け入れ対応アンケート調査 ～成人・結果～

- ・46病院から回答を得た。(回答率50%)
- ・呼吸5項目、栄養2項目について、それぞれの項目のすべて対応可、一部対応可能、すべて対応不可能の3群に分類して示した。
- ・人工肛門、中心静脈栄養、腹膜透析の3項目については、回答にかなりのばらつきがあり、実際には個別の確認が必要と考えられたため結果には示していない。

急性期



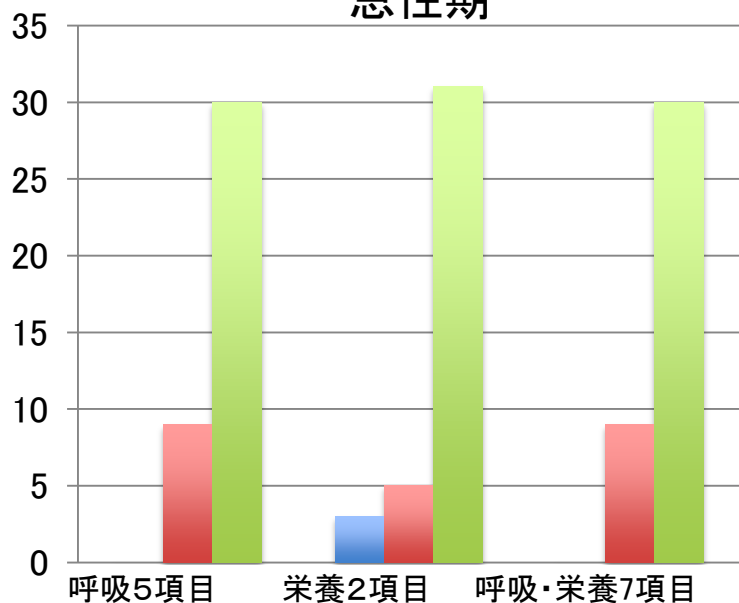
慢性期



重度障害児者の入院受け入れ対応アンケート調査 ～小児・結果～

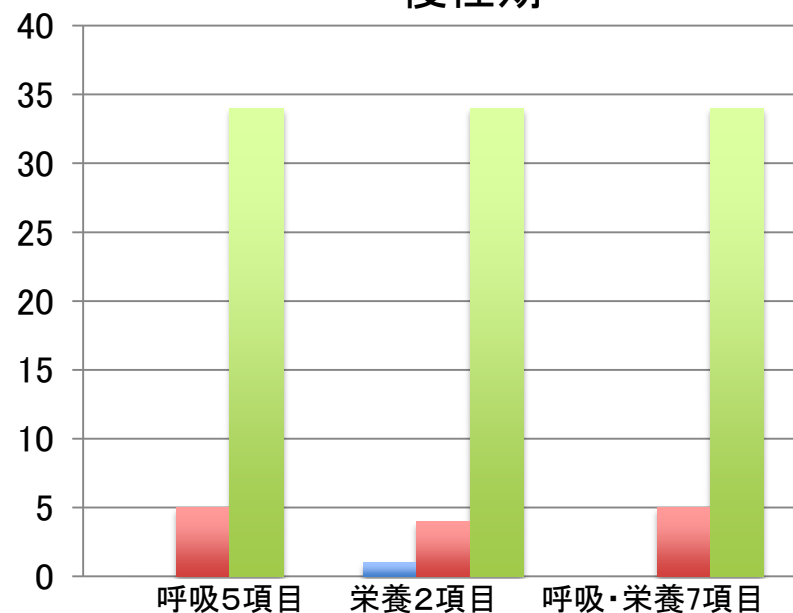
- ・39病院から回答を得た。(回答率42%)
- ・呼吸5項目、栄養2項目について、それぞれの項目のすべて対応可、一部対応可能、すべて対応不可能の3群に分類して示した。
- ・人工肛門、中心静脈栄養、腹膜透析の3項目については、回答にかなりのばらつきがあり、実際には個別の確認が必要と考えられたため結果には示していない。

急性期



施設数

慢性期



施設数

- すべて対応可能
- 一部対応可能
- すべて対応不可能

重度障害児者の入院受け入れ対応アンケート調査 ～考察～

- ・成人では回答率が50%で、呼吸と栄養に関する7項目すべての急性期に対応可能と回答した病院が16病院あり、受け入れに前向きな病院が比較的多いことがわかった。
- ・小児では回答率が42%と成人より低く、また呼吸と栄養に関する7項目すべての急性期に対応可能と回答した病院はなく、すべて対応不可能と回答した病院が30病院にのぼった。
- ・成人・小児ともに慢性期の受け入れ可能と回答した病院は急性期の受け入れ可能な病院より少なかった。
- ・小児ではすべての項目に対応可能と回答した病院がなく、今回のアンケート調査対象外の三次救急病院に頼らざるを得ない現状が浮き彫りになった。

神戸市における 『重度障害児者の医療福祉コーディネート事業』 今後の予定

- ・受け入れ可能病院の情報の整理
→二次アンケート調査の実施
- ・急性期病院から慢性期病院への転院のコーディネート方法
について整理
- ・三次救急病院と本事業との連携の方法について確認
- ・情報登録書の登録・管理(更新も含む)方法について整理
- ・情報登録書の登録への呼びかけ方法について整理